

執筆者紹介（掲載順）

櫻井ちひろ（本学大学院博士課程後期課程在学学生）
風岡むつみ（本学大学院博士課程後期課程在学学生）
金 恩 愛（本学大学院博士課程後期課程在学学生）
神谷勝広（本学教授）
城 阪 早 紀（本学大学院博士課程後期課程在学学生）
吉岡真由美（本学大学院博士課程後期課程在学学生）

編集後記

本号は、上代から近世までの文学および日本語についての研究論文が五本、資料紹介が一本という構成となった。その内の多くが本学の大学院生による研究論文であり、院生たちの活発な研究活動がうかがえる。巻末に付した今年度の修士論文題目や卒業論文題目からも、その様子は伝わってくる。

「国文学」に限らず、人文系の学部や学科が大学から姿を消すようになり、かつてその場が維持していた学内誌や研究誌の刊行が難しくなっている話をよく耳にする。『同志社国文学』にはまだそのような心配はなさそうだが、このような状況の中で人文学的にものを考えることにどのような意義があるのか、改めて会員諸氏に聞きたいと思う。